

コロナに
負けるな！



未来を

京都と子どもたちの明るい

Morita Mamoru Reportage

京都市会議員

森田 守

まもるポ

Vol.8

2021.12月

● 行財政改革

9月市会 総括質疑



Q 森田守 敬老乗車証の改正、学童クラブ事業の料金改定など、他都市を上回る独自施策の見直しが審議されています。京都市民間保育園職員給与等運用事業補助金(プール制)についても再構築に向けて議論が進んでいます。これらの事業は京都市が誇るべきものだと思う一方で、このままでは制度が破綻してしまうので、持続可能なものとするために改正することについては賛成です。

ただ、今日まで十分な効果検証をせず、また、審議会や議会からの指摘についても十分に受け止めず、制度改正が先延ばしになってきたことは大いに問題があると思っています。結果、コロナ禍という最悪のタイミングで制度改正をしなければならぬ、敬老乗車証制度の取り上げても、結局今まで先延ばしした結果、財政危機が直撃し、IC化による応益負担の導入ができます、現行制度から大幅な変更になってしまいました。

是非来年度、ゼロベースで市長の覚悟が感じられるような予算にしたいと思っていますが、いかがでしょうか。

A 門川市長 反省すべき点はたくさんと歳出をしっかりと合わせていかなければなりません。特別な財源対策により将来世代に負担を先送りして現在のサービスを維持してきたことが今回の財政危機の大きな要因であります。

敬老乗車証につきましても、長年議論していたものの、改正に踏み切れなかったということも事実でございます。また、プール制についても効果検証をしっかりとしていなかった。あまり言いませんと言いつつありますので、未来に向かってセーフティネットをしっかりと利かせていく、さらに、京都の魅力を守り、公債償還基金の取崩しからできるだけ早く脱却する、そのスタートになる予算編成にしなければならぬと覚悟を決めております。

● 3歳児検診

Q 森田守 弱視とは、眼鏡やコンタクトをして

も1.0が見えない病気で、その割合は約2パーセントと言われていますが、京都市の3歳児健診における弱視の発見率は0.54パーセントと、大きな乖離があり、3人の内2人の弱視が見逃されている現状があります。

私も今年3歳児健診に実際に行きましたが、視力検査が

家庭にゆだねられているため、正確な検査ができておらず、なんとか改善できないかと思っています。

3歳児健診で弱視を早期発見できて治療を開始すれば十分な視力が獲得できると言われており、フォトスクリーナーという機器を使用した屈折検査を導入すれば、この問題を簡単に解消することができます。

1台約100万円と言われていますが、来年度、厚生労働省が2分の1の国庫補助を行う方針だということです。3歳児健診を実施する14会場に是非設置していただきたいと思っています。

財政危機の中ですが、例えばパイロットや警察官、消防士、自衛官など、視力によって子供たちの将来の夢が閉ざされるということではなくともうしたい。

A 吉田副市長 3歳児健診における視力検査につきましては、家庭でカードを見せて、そして質問を書いて、健診に来て小児科の先生に判定をいただくということ、制度そのものに大きな課題があると認識しているところであります。

弱視については、子供さんの発達に大きく影響するものですので、早期に発見して治療するというのが大切だと思っております。3歳児健診の大きな目的が早期発見して治療や訓練に結び付けていくことなので、それをしっかりと果たしてまいります。

屈折機器につきましては、令和4年度の予算で概算要求がされており、まずは国の動向をしっかりと注視していきたいと思っております。

京都府医師会、また眼科医会からも導入すべきという御意見も聴いております。財政状況、それから14箇所の健診の場での体制等の課題などをしっかりと解決して、効果のある屈折検査機器の導入を含めまして、弱視の早期発見、早期治療について検討してまいりたいと思っております。



森田守 委員
(自民党 右京区)

森田 守 プロフィール

昭和50年 6月15日生まれ
平成6年 同志社香里高等学校卒業
平成10年 同志社大学法学部法律学科卒業

平成10年 ㈱セブンイレブン・ジャパン入社
平成16年 参議院議員二之湯智秘書
平成27年 京都市会議員初当選

平成31年 京都市会議員2期目
家族構成 妻、娘3人、息子2人、猫4匹
趣味 スキー、アウトドア、マラソン

●栗尾ハイパス（栗尾隧道）

Q 森田守 今年度、公共事業再評価が実施される栗尾ハイパスについて事業休止とどう答弁がありましたか。

平成の大合併の際に京北町は京都市との合併を選びました。その際の約束事、「京都市京北町合併建設計画」の最重要事業が栗尾ハイパスです。栗尾峠はカーブが連続し、冬季は積雪や凍結など交通の難所と言われており、京北の方にとっては栗尾ハイパスの開通は50年来の悲願でした。平成25年に京北トンネルが開通して、事業自体は約9割進捗していますが、周山手前の栗尾隧道付近が未着手であり、未だ100%の事業完了に至っていません。

この事業には、極めて有利な合併特例債が充てられる予定ですが、巨事業休止となれば、将来、事業再開した時に、再度この合併特例債を充てられるかどうかは不透明です。合併特例債により、京都市の負担が2億4000万円も軽減できるにも関わらず、事業休止することについては、実質廃止ではないかと心配の声も聞かれますがいかがですか。

A 鈴木副市長 この未着手区間ですが、擦れ違いが困難な箇所、あるいは見通しが悪い所もあり、整備の必要性自体は認識しております。

一方で、各道路事業をどう進めるのかという経緯の中で、平成24年の見直しにより、当面事業を見送る路線とどう位置付けをされております。平成29年3月には、これ以外の事業実施予定の19路線についても、今般の行財政改革の中で予算の見送りを余儀なくされている路線が出ております。

御指摘いただいたように、合併特例債は非常に有利な条件ではありますが、投資的経費の上限、あるいは公債発行の上限とどう考えるべきか、今の位置付けを考えたものでございます。決して廃止したというわけではなく、可能な限り早期の整備を目指してまいります。

●敬老乗車証制度を守る

敬老乗車証と同じ価値がある「市バス・地下鉄共通全線定期券」は年額205,520円です。今回の敬老乗車証制度改正後も所得に応じて9,000円〜45,000円でご利用いただけます。現在、制度維持のために年間52億円が投入されているものを、制度改正により年間25億円に抑制し、持続可能な制度とします。

	合計所得金額	現行	合計所得金額	見直し後	
				令和4年10月1日～	令和5年10月1日～
交付対象 改定	—	70歳以上	—	75歳以上 かつ 合計所得金額700万円未満 年齢の引き上げは2年に1歳ずつ10年間で段階的に実施	—
敬老乗車証 (フリーパス証) 利用者負担金年額 改定	生活保護受給者等	¥0	生活保護受給者等	¥0	¥0
	市民税非課税 200万円未満	¥3,000	市民税非課税 200万円未満	¥6,000	¥9,000
	200万円以上 700万円未満	¥5,000	200万円以上400万円未満 400万円以上700万円未満	¥10,000 ¥20,000 ¥30,000	¥15,000 ¥30,000 ¥45,000
	700万円以上	¥10,000 ¥15,000	700万円以上	対象外	対象外
敬老バス回数券 新設	—	なし	—	なし	¥10,000の回数券を ¥5,000で交付 フリーパス証との選択制
民営バス証の適用地域 充実	—	適用地域の変更なし	—	適用地域の変更なし	適用地域の一部拡大

●身辺雑記

参議院 参議院戦出馬 吉井あきら市議

森田守議員の政治の師であり、国家公安委員長・内閣府特命担当大臣をお務めの二之湯智先生の後継者として、来夏の参議院選挙に挑戦することとなりました。京都市会議員の吉井あきら市議が参ります。

私は、これまでの経験を基に、地域に暮らす方々からの切実な訴え、そして地方議員同志の熱い思いを国政の場に反映させていきたいと考えております。歴史と伝統を重んじ、正しい道徳心・倫理観、価値観を持ち、家族を思い、社会的弱者を大切に、生まれ育った地域、そして日本を愛し、日本人として誇りを持って生きていくことのできる社会・国づくりを邁進して参ります。

どうか森田守議員後援会の皆様方の深いご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。



みなさまの“声”が市政に活かされています!

スクールゾーン

府議会議員、教育委員会、京都府警、建設局など関連部署と連携し、西院小学校の児童が登下校時に利用する中ノ橋通にスクールゾーン表記が実現しました。これからも地域の安全対策を進めていきます。



ごみ収集場所

ごみの収集場所は、パッカー車のルートや、道路の形状、また、地域の様々な事情を考慮して決められています。今回地域からのご相談を受け、まち美化事務所の協力のもと収集場所の変更を実施しました。



編集・発行

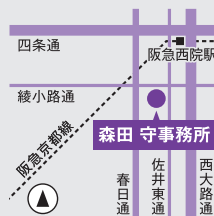
京都市会議員 森田 守事務所

〒615-0027 京都市右京区西院西三蔵町9-1 Connect西院2F (阪急西院駅(西改札口)より徒歩約2分)

TEL&FAX: 075-313-0023

E-mail: moritamamoru.kyoto@icloud.com

https://www.moritamamoru.kyoto



是非、みなさまの“声”をお聞かせください!